

梅雨時の大雨に備えた農作物等の管理対策

令和8年6月22日
新潟県農林水産部

新潟地方气象台によると、新潟県は6月20日ごろに梅雨入りしたとみられています。例年、梅雨時期には大雨が発生しやすく、農作物や農業施設等への被害が懸念されます。このため、気象情報に十分留意し、以下の事前対策を参考に、平時から必要な対策を講じてください。

なお、大雨や強風等の荒天時には、水路やほ場の見回りなどは行わず、作業者の安全確保を最優先としてください。また、大雨通過後においても、周囲の安全を十分確認した上で、必要な事後対策を行いましょう。

加えて、梅雨時期は高温多湿となり、熱中症のリスクが高まります。農作業時には、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩を心掛け、熱中症の予防に努めてください。

1 農作物共通

<事前対策>

- (1) ほ場周辺の排水路等の施設の点検や、明きよ・暗きよの排水路への接続を確認し、遅滞なく排水できるよう整備する。また、排水ポンプ等を使用する場合は、事前に保守点検や試運転を行う。
- (2)ハウスの点検を十分に行い、雨水の浸入等が生じないように保護・補修を行う。

<事後対策>

- (1) 浸水^{*1}や冠水^{*2}したほ場は、明きよや排水ポンプ等を活用し、可能な限り速やかな排水に努める。
- (2) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認し適切に防除する。

*1 浸水：ものが水に浸ったり、水が入りこんだりすること。水田では、畦畔の高さ以上に滞水し、稲の葉先や穂は水面から出た状態。

*2 冠水：農地や作物、道路が水をかぶること。水田では、稲が水中に没し水面上に全く見えない状態。

2 水稻

<事前対策>

下流域への影響を考慮し、大雨が予報されたら、一定水位を保った上で排水されるよう水尻を調節する。

<事後対策>

浸水・冠水すると、病害虫が発生しやすくなるため、速やかに発生状況を確認し、適宜防除を行う。

3 大豆

<事後対策>

排水後、大豆が本葉展開～開花期頃の場合は中耕・培土を行う。畦上まで2日以上水没した場合は、生育を回復させるため窒素追肥を10a当たり成分で2～3kg施用する。

4 野菜・花き

<事後対策>

- (1) 浸水・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかに散水し汚れを落とす。
- (2) マルチ栽培では、一時的にマルチをめくり、土壌を速やかに乾燥させる。
- (3) 倒伏した株は、早急に起こし、曲がり防止する。
- (4) 葉が傷んだ場合等は、液肥の葉面散布を行い、草勢回復を促す。
- (5) 果菜類では、降雨が続いた後に強い日射があると果実の日焼けが懸念されるため、すいか等は、ワラ等による果実の被覆、施設栽培では遮光などを行う。草勢低下や株の衰弱がみられる場合には、摘果（摘花）や追肥を行い草勢の回復を促す。また、交配しても水滴や湿度の影響で着果しないおそれがあるため、状況をよく確認し、必要に応じて再度交配する。
- (6) 切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の強い日射により、葉焼け（チップバーン）等の生理障害を生じやすいので、日射量に応じてこまめに遮光し、換気・送風等により適切に温度・湿度を管理する。

5 果樹

<事前対策>

表土流亡の恐れのある園では敷わらや敷草を実施する。

<事後対策>

収穫期に近いももは、大雨により熟期が早まることがあるので、品質が低下しないよう果実をよく観察し、適期に収穫する。

6 牧草・飼料作物

<事前対策>

調製済の牧草ラップサイレージ等をほ場で保管する場合は、浸水しない場所に移動する。

<事後対策>

- (1) 河川敷のほ場が浸水・冠水した場合は、再生を促すため、牧草を刈取り持出す。
- (2) 流木、土砂等が流入した場合はこれらを除去し、牧草の密度が著しく低下した場合は追播または草地更新を行う。

7 家畜管理等

<事前対策>

畜舎への雨水の浸入を防ぐとともに、配合飼料や牧乾草は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

<事後対策>

- (1) 畜舎に浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の点検や洗浄・消毒、必要により補修をする。また、電気設備は漏電事故が起こらないよう再起動前に点検する。
- (2) 搾乳機器は、故障の有無を点検し、消毒等の衛生対策を徹底してから利用を再開する。
- (3) 家畜をよく観察し、異常のある場合は速やかに獣医師の診療を受ける。

- (4) 死亡家畜は、速やかに化製場に搬入する等適切な処置を行う。

8 きのこと

<事前対策>

- (1) 施設（ハウス、雨よけなど）の点検を十分に行い、雨水の浸入、損壊、倒壊等が生じないよう保護・補修を行う。
- (2) 屋外に保管してある資材類（おが粉等）は、飛散しないよう被覆などにより適切に管理する。移動が可能な場合は、屋内に移動させる。

<事後対策>

- (1) 大雨が収まったら速やかに、被害状況を把握する。
- (2) 浸水した施設の電気設備は、漏電事故が起こらないよう再起動前に点検する。
- (3) 水に浸かった菌床・生産物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- (4) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。
- (5) 修繕は十分な安全を確保してから実施する。

9 漁業全般

<事前対策>

早めの情報入手に心がけ、大雨が予想される際には漁具や飼育池等の管理に十分留意し、厳重に警戒するよう組合員へ周知する。

<事後対策>

- (1) 河川から流出した流木などが港内や海上を漂流している場合があるため、出入港、操業時は、周囲の安全を十分確認し、漂流物に接触しないよう注意しながら航行する。
- (2) 係留している漁船・漁具や飼育池等は、安全を確保した上で状況を確認する。

気象庁は、令和8年5月29日より 新たな防災気象情報の運用を開始しました！

新たな気象警報・注意報

- ✓ 避難が必要な4つの現象を対象に、情報名称に5段階の警戒レベルにあわせた数字を付けて警報・注意報を発表します。
- ✓ 危険な場所にいる人は、市町村からの避難情報発令前でも、これらの情報を参考に、レベル4までに自らの判断で避難してください。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	住民がとるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
-----<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！>-----					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から 全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	危険な場所から 高齢者等は避難
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	自らの避難行動を 確認する
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを 高める

出典：気象庁ホームページ

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/keiho-update2026/index.html>)